

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立鯉江中学校

令和8年3月

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

本校の教育目標である「人間尊重の教育を一層深化・充実させるとともに、基礎学力の定着と、自立的な生活習慣の育成に努める。」を達成するために、生徒の「規範意識」の高揚と「集団づくり」の重要性を再確認し、努力を重ねてきた。

その結果、落ち着いた教育環境のもと、ここ数年の全国学力・学習状況等調査の正答率は全国平均を上回り、生徒質問紙における生活習慣・学習習慣や規範意識も全体的に高い状態にある。しかし一方で家庭学習が定着していない生徒もおり、学力の2極化の傾向も見受けられる。また、情意面では自尊感情が低い面もみられ、今後は自己肯定感を高めていく必要がある。

体力・運動能力の面では学年や男子と女子の違いもあり、種目により全国平均を上回るものとそうでない種目が見受けられる。今後は安定した体力・運動能力の向上がさらに必要である。

また、学校組織としては、若手教員の増加や生徒を取り巻く社会環境やその変化に伴う教育活動や不登校を含めた生徒指導の多様化が課題となり、若手教員と経験豊かな教員との連携・協働により、『授業力』の向上を図っていく必要がある。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の生徒アンケートで、「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合が90%以上となるようにする。
- 令和7年度の生徒アンケートで、「学校は楽しい」の項目について、「とても思う(そう思う)」と回答する生徒の割合が93%以上となるようにする。
- 令和7年度の生徒アンケートで、「学校の規則やルールを守っている」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合が95%以上となるようにする。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査や府のチャレンジテストにおいて、母体集団である国・府の平均正答率を4ポイント以上上回るようにする。
- 令和7年度の生徒アンケートで、「宿題以外に予習・復習や問題集を解くなど家庭学習に取り組んでいる」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女とも合計点で全国値を上回るようにする。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の生徒アンケートで「授業ではICT機器を効果的に活用している」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 令和4～7年度の教員の一人当たり平均時間外勤務時間が、毎年校種別の平均を下回る。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の生徒アンケートで、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合が 90%以上となるようにする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- 年度末の校内調査において、学校が認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 年度末の生徒アンケートで、「先生たちは、相談した事や悩み事にきちんと対応してくれる」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- 年度末の生徒アンケートで、「学校は楽しい」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合が 90%以上となるようにする。
- 年度末の生徒アンケートで、「学校の規則やルールを守っている」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合が 95%以上となるようにする。
- 年度末の生徒アンケートにおける「部活動は充実している」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と答える生徒の割合を 85%以上にする。
- 年度末の生徒アンケートで、「学校では道徳の授業以外にも人権・平和・環境・生命の大切さについて学ぶ機会がある」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する割合を 90%以上にする。
- 年度末の生徒アンケートで、「学校は避難訓練をはじめとした、防災・減災などの安全教育に努めている」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する割合を 90%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の生徒アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 45%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05 ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を 65%以上にする。
- 年度末における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 53%以上にする。
- 今年度の全国学力・学習状況調査や府のチャレンジテストにおいて、母体集団である国・府の平均正答率を 4 ポイント以上上回るようにする。
- 年度末の生徒アンケートで、「宿題以外に予習・復習や問題集を解くなど家庭学習に取り組んでいる」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合を 65%以上にする。
- 年度末の生徒アンケートで、「読書が好きである」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合を 70%以上にする。

- 今年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女とも合計点で全国値を上回るようにする。
- 年度末の生徒アンケートで「普段、朝食を食べていますか」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。

#### **【学びを支える教育環境の充実】**

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 年度末の生徒アンケートで「授業ではICT機器を効果的に活用している」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ゆとりの日を週に1回設定・実施する。
- 教員の一人当たりの平均時間外勤務時間が、校種別の平均を下回る。
- 年度末の保護者アンケートで、「学校の行事や教育活動、子どもたちの様子は、ホームページや通信(学年・学級だより等)や懇談会でよく知ることができる」の項目について、肯定的な回答する保護者の割合95%以上にする。

### 3 中期目標及び本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

生徒アンケートで、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は86.6%と前年度(86.4%)を上回ったが、目標(90%以上)を達成することはできなかった。しかしながら学校が認知したいじめについて解消した割合は100%となり目標(95%以上)を達成することができた。今年度も年3回の教育相談を実施し、それ以外でも個々の生徒の状況を全教職員で把握できるように細やかで迅速な情報共有の機会を多くもつことができた。

不登校の在籍比率は6.8%となり、前年度(8.6%)から減少することができた。SSRの利活用が活性化してきているが、さらなる改善のために柔軟かつ即効性のあるシステムづくり等の創意工夫が今後の課題である。

区役所施策のサポート事業ならびに各サポーターの活用、こども相談センター、区役所子育て支援室等、校外の教育資源を積極的に取り入れることで生徒、家庭、地域へのアプローチ、連携を密接なかたちにてできている。引き続き、「安全安心な学校づくり」を最優先としすべての教育活動を「チーム学校」として力強く推し進めていく。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

生徒アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は46.7%と目標(45%以上)を上回ることができた。

大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)は78%となり全市目標値(65%以上)を大きく上回った。

今年度の全国学力・学習状況調査や府のチャレンジテストにおいて、母体集団である国・府の平均正答率を8ポイント上回ることができた。

生徒アンケートで、「読書が好きである」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合は55.9%(目標70%以上)となり、大きく下回った。教科の枠を越えて「読解力」の育成には注力してきたが、読書離れの傾向は少しずつ大きくなっている。

令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、合計点男子43.51、女子50.54となり、男女共に全国値(男子42.20、女子47.58)を上回った。

これらの結果、データを正確に分析し、教職員全体の資質向上に役立てていけるかが今後の重要課題である。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

生徒アンケートで「授業ではICT機器を効果的に活用している」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合は86.5%となり、目標(85%以上)を上回った。

教員の一人当たりの平均時間外勤務時間が、校種別の平均を下回ることができなかった。

保護者アンケートで、「学校の行事や教育活動、子どもたちの様子は、ホームページや通信(学年・学級だより等)や懇談会でよく知ることができる」の項目について、肯定的な回答する保護者の割合は95.4%となり、目標(95%以上)を上回った。

総じて今後も鯉江中学校が抱える新たな教育課題の解決のため、生徒によるしゅてい的活動を推進し、『子どもファースト』の考えのもと、熱意と愛情あふれる鯉江中の特色ある教育実践を引き続き展開していく。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○年度末の生徒アンケートで、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、<u>最も肯定的な「思う」</u>と回答する生徒の割合が90%以上となるようにする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、学校が認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○年度末の生徒アンケートで、「先生たちは、相談した事や悩み事にきちんと対応してくれる」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の生徒アンケートで、「学校は楽しい」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合が90%以上となるようにする。</p> <p>○年度末の生徒アンケートで、「学校の規則やルールを守っている」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合が95%以上となるようにする。</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおける「部活動は充実している」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする事で、自己肯定感を高める。</p> <p>○年度末の生徒アンケートで、「学校では道徳の授業以外にも人権・平和・環境・生命の大切さについて学ぶ機会がある」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の生徒アンケートで、「学校は避難訓練をはじめとした、防災・減災などの安全教育に努めている」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する割合を90%以上にする。</p>	<p><b>B</b></p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成(道徳教育の推進)】</b></p> <p>全校集会や各学年集会、各学級において、学校の規則を守ることについて、全教職員で日常的に指導する。</p> <p><b>指標</b> 「学校の規則を守っていますか」で肯定的回答が90%超を維持するように指導を続ける。</p>	B
<p><b>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成(道徳教育の推進)】</b></p> <p>特別の教科道徳の体制づくりをすすめる。</p> <p><b>指標</b> 教材研究とふり返りシートの作成をすすめる。自己評価シートを含め、評価方法について研究していく。</p>	B
<p><b>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成(人権を尊重する教育の推進)】</b></p> <p>教育相談週間を設け、生徒の悩みや困っていることを細やかに聞き取り、問題がある場合には、速やかに解決し、生徒との信頼関係を確固たるものとする。</p> <p><b>指標</b> ・教育相談を年2回行う。 ・3学期の生徒アンケートで信頼関係に関する項目で、70%を上回るように努める。</p>	A
<p><b>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成(キャリア教育の推進)】</b></p> <p>自らの進路選択に向けて、望ましい職業観、勤労観を育成するため、3年間見通した系統的な指導を行っていく。</p> <p><b>指標</b> 3学期の生徒アンケートで、「中学校では、進路学習や将来について考える機会がある」という項目で肯定的な回答の割合を70%以上にする。</p>	A
<p><b>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成(人権を尊重する教育の推進)】</b></p> <p>・1年生で「環境」・2年生で「平和」・3年生で「人権」学習に取り組む。 ・各学年で外部講師を招聘し、性教育について学ぶ機会を設ける。</p> <p><b>指標</b> 「学校では道徳の授業以外にも人権・平和・環境・生命の大切さについて学ぶ機会がある」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する割合を90%以上にする。</p>	A
<p><b>取組内容⑥【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現(防災・減災教育の推進)】</b></p> <p>年間指導計画に沿って、防災教育に関する授業や集会を実施する。</p> <p><b>指標</b> 映像教材などを用いて、年に2回防災教育(火災1回と地震、津波1回)を行う。</p>	A
<p><b>取組内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成(インクルーシブ教育の推進)】</b></p> <p>・保護者と日常的に連携し、一人ひとりのニーズに応じた教育支援を進める。 ・個別の支援計画、指導計画の充実を図り、社会的自立につながる学習を取り入れる。 ・入級生徒の多様性に応じるために、インクルーシブ委員会や研修会などを通じて、各教職員が個々の生徒の特性について理解を深め、学校全体で取り組む体制を整える。</p> <p><b>指標</b> ・原学級担任や教科担当、支援担当者間において連絡を常に行う。 ・教科担当者との引継ぎがスムーズに行えるよう、各生徒の学習への取り組み状況を確認し、連携を図る。 ・抽出授業に、生活単元学習など社会的自立につながる学習を取り入れる。 ・授業中の支援教材として1人1台端末の活用を促し、自身で活用できるようにしていく。 ・原学級での授業における合理的配慮を教科担当と相談し遂行していく。</p>	B

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析(最終評価)

- ① 全校集会を通して注意すべき行動や時間を守ること等について細やかに指導を適宜行った。
- ② 各学年でそれぞれの授業における生徒の反応やワークシートの内容を修正しながら実施した。
- ③ 教育相談を年間3回行った。特に今年度は、様々な場面で生徒の不安を和らげるために、教育相談以外にも個別に相談する機会を設けた。そして、生徒との信頼関係に関するアンケートの項目では、94.3%と目標を大きく上回った。
- ④ 各学年で、今後の進路選択に向けて、SP トランプや職場体験、マナー講座等を行い、進路選択の礎となるような取り組みを行った。アンケートでも肯定的な回答が89.2%と目標を上回った。現2年生で行う予定であった高等学校等の出前授業は、日程の都合上来年度に行うことにした。
- ⑤ 文化発表会に向けて、それぞれの学年で「環境」「平和」「人権」の学習に取り組むことができた。性教育も実施済み。アンケートでも肯定的な回答が93.6%と目標を上回った。
- ⑥ 火災と地震・津波の避難訓練の後、映像教材を用い防災教育を行った。実際に避難行動をした後の映像は効果的であり、自らの命を守る行動に意識を向けることができた。
- ⑦ 連絡帳や懇談を通じて、日々の学校での様子を保護者に伝えるとともにニーズに合わせた個別の対応をすることができた。抽出授業では教科の学習だけでなく、コミュニケーションを高めるグループ活動や、ものづくりなどを通して社会自立に向けて必要な力を身に着ける取り組みができた。年内にインクルーシブ研修を実施することができなかつたため、次年度に引き継ぎたい。通級指導を開始したことにより、これまでの授業への入り込みによる支援に留まっていた生徒に対して、個別に必要な自立活動を実施することができた。

### 次年度への改善点

- ① 毎週月曜日と、月曜日が祝日の場合は火曜日に全校集会を実施することで全体での指導を継続的に行っていく。
- ② 研修の内容を適宜共有し、道徳の授業の内容をより深められるようにする。
- ③ 次年度も、丁寧に生徒対応することを目指し、生徒との信頼関係を確実なものとする。また、保護者アンケートの肯定的意見に関しても、今回は73.2%であったが、75%以上となるように、継続して指導・支援していく。
- ④ 次年度も生徒一人ひとりが最適な進路選択を行えるように系統立てた進路学習の推進と構築を目指し、指導支援していく。また、再来年度の入試改革に向けて、生徒だけでなく教員側も入試制度の理解をしていく必要がある。
- ⑤ 次年度も、取り組みを充実させ、継続的・計画的に行っていく。
- ⑥ 津波避難時に運動場から3階以上に避難する際の経路に関しては、今後再検討の必要がある。
- ⑦ 各教科のや学習の様子や課題の提出状況などを教科担当者と連携し、特別支援学級の生徒が通常学級で無理なく学習できる手立てを共に検討していきたい。通常学級での交流学习において、生徒の特性に合った取り組みができるよう、検討していきたい。通級指導で指導内容が限定的にならないよう、多様な活動や教材を取り入れる工夫が必要である。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○年度末の生徒アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を45%以上にする。</u></p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、<u>いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。</u></p> <p>○大阪市英語力調査における<u>C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を65%以上にする。</u></p> <p>○年度末における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、<u>最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を53%以上にする。</u></p> <p>○今年度の全国学力・学習状況調査や府のチャレンジテストにおいて、母体集団である国・府の平均正答率を4ポイント以上上回るようにする。</p> <p>○年度末の生徒アンケートで、「宿題以外に予習・復習や問題集を解くなど家庭学習に取り組んでいる」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合を65%以上にする。</p> <p>○年度末の生徒アンケートで、「読書が好きである」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>○今年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女とも合計点で全国値を上回るようにする。</p> <p>○年度末の生徒アンケートで「普段、朝食を食べていますか」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(習熟度別少人数授業の充実)】</b></p> <p>国語科・数学科・英語科における習熟度別授業、チームティーチング授業を充実させることで、基礎学力を定着させ、応用力をつけることを図る。</p> <hr/> <p><b>指標</b> 習熟度別授業やチームティーチング授業を実施計画どおりに実践し、また、全国学力・学習状況調査及び学校アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい」という肯定的回答が昨年度と同程度か上回るようにする。</p>	B

<p><b>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(自主学習習慣の確立)】</b></p> <p>家庭学習の大切さ、特に復習や自主学習の重要性の指導を行い、家庭学習、自学自習していく取り組む態度の育成を行う。</p>	B
<p><b>指標</b> 生徒アンケートの「宿題以外に、予習・復習や問題集を解くなど家庭学習に取り組んでいる」で、当てはまらないという回答割合を8%以下にする。</p>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(国語)】</b></p> <p>ノートなどの提出物点検や小テストをこまめに実施し、基本的な事項についての定着を図る。また、ICTを活用した授業の充実に努める。さらに、短歌、俳句、作文などの創作を通して、書く力、表現力をつけさせ、語彙を豊かにする。</p> <p>総合的読解力育成カリキュラムを授業に取り入れ、読解力を中心とした、思考力・判断力・表現力の育成を行う。</p>	A
<p><b>指標</b> 漢字などの点検や小テストを、年間20回以上実施する。</p> <p>また、デジタル教材を活用した授業を学期に1回実施する。</p> <p>学期に1回、短歌、俳句、作文などの創作活動に取り組む。</p>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(社会)】</b></p> <p>課題を与え自主学習の習慣を養い、提出を確認し、生徒の学力を把握する。</p>	A
<p><b>指標</b> 定期的実施し、8割の提出率を目指す。</p>	
<p><b>取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(数学)】</b></p> <p>習熟度別授業を行い、生徒が質問しやすい環境を整えるとともに、個別指導の機会を増やし、次年度を見据えて ICT 教材をより一層効果的に活用し、授業内容の定着を図る。また、「物事を数学的に考える力」、「思考・判断・表現力」を養うために考えたことを表現する機会を設ける。</p>	B
<p><b>指標</b> 生徒アンケートにおいて、「数学の授業は分かる」と「授業ではICT機器を効果的に活用している」という2つの項目について、肯定的回答が70%を上回るようにする。また、考えたことを表現する機会を週2時間以上設ける。</p>	
<p><b>取組内容⑥【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(理科)】</b></p> <p>ノートなどの提出物の点検や小テストの実施により基本的な事項についての定着を図る。実験・観察授業を通して、事象や結果を分析し、科学的な思考・判断・表現ができるようにする。</p>	A
<p><b>指標</b> 主体的・対話的な実験・観察授業を年間9回以上行い、学びを深める。</p>	
<p><b>取組内容⑦【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(音楽)】</b></p> <p>音楽的な見方・考え方を働かせ、表現および鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を磨き、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。</p>	A
<p><b>指標</b> 表現活動に対して意欲的に工夫して表現しようとする生徒、鑑賞活動に対してより深く楽曲を理解し、豊かな感性を持って鑑賞する生徒を育成する。各単元のプリントやワークシート等の完成度を84%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容⑧【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(美術)】</b></p> <p>一人一人が鑑賞、作品制作などの活動から自己を表現し考え、制作の過程で色彩や情操などを感じる力、美術についての理解を深め、美術を愛好する心情を育てる。</p>	B
<p><b>指標</b> 制作・鑑賞の授業を通し、美術を愛好する心情を育てる。作品制作後には、どの</p>	

<p>ように考え制作を行ったのかの振り返りを行い次の活動に繋げていく。全体での作品完成率を80%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容⑨【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(保健体育)】</b></p> <p>種目ごとに個人に合わせた目標設定をし、達成感を味わえるような工夫をする。グループ活動を多く取り入れ、運動・スポーツへの興味関心を高め、体力向上を目指す。</p>	B
<p><b>指標</b> 体力維持・向上を図るため、毎時間6種目以上の補強運動を行う。また、年に体力の振り返りができるような測定(50M 走や20M シャトルラン等)を定期的実施する。「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」「やや好き」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容⑩【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(技術・家庭)】</b></p> <p>問題解決能力育成のための実技実習などを行い、私生活と技術・家庭で得た知識を活用できるようにする。また、基礎知識・基礎技能の定着を図る。さらに、学習端末とICTの活用やグループ学習によって、学びを深める。</p>	A
<p><b>指標</b> 実習作品の完成率を90%以上になるように努める。</p>	
<p><b>取組内容⑪【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(英語)】</b></p> <p>基礎学力を定着させることにより、「読む・書く・聞く・話す」の4技能の向上をめざす。また、授業の中で自分の考えを表現したり、生徒間で対話したりする等の言語活動を計画的に実施し、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	B
<p><b>指標</b> 単語等の確認テスト、パフォーマンステストで65%以上の理解度をめざす。</p>	
<p><b>取組内容⑫【基本的な方向5 健やかな体の育成(体育科授業の充実)】</b></p> <p>新体力テストの実施前にそれぞれの種目においての必要なトレーニングを実施し、準備することにより、体力テストに向けての積極的な意識の構築に努める。</p>	A
<p><b>指標</b> 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女とも合計点で全国値を上回るようにする。</p>	
<p><b>取組内容⑬【基本的な方向5 健やかな体の育成(体育科授業の充実)】</b></p> <p>各学年での各種スポーツ大会を実施し、体力の向上、団結力の強化、ルール遵守等の精神を伸長する。また、生徒が主体となり積極的に取り組んでいけるよう工夫していく。</p>	A
<p><b>指標</b> 各学年の実情に応じて、1回以上のスポーツ大会を行う。</p>	
<p><b>取組内容⑭【基本的な方向5 健やかな体の育成(食育の推進)】</b></p> <p>食生活の大切さと食の安全の意識を向上させ、健全な生活習慣を確立させる。</p>	A
<p><b>指標</b> 「食育つうしん」を毎月1回発行する。感染症対策とともに給食を安全に実施させ、食に関する知識と、正しい食習慣を身につけさせる。アレルギーのある生徒に対してアレルギー確認表を毎月配布し、本人・保護者・学級担任が確認を行い、安全な給食を行う。</p>	
<p><b>取組内容⑮【基本的な方向5 健やかな体の育成(健康教育の推進)】</b></p> <p>日々の健康観察や毎月の欠席調査、けが等の実態に基づく分析を行い、適切な指導へつなげていく。「保健だより」の活用と保健委員会の活動を充実させることによって、病気やけが等の防止に関する意識の向上を図っていく。また、自己を大切に、将来における健康意識を高めるため、各種健診後の受診者数を増加させる。美化委員会の活動として健康や衛生的な環境を整備する。</p>	A
<p><b>指標</b> 「保健だより」を毎月1回発行する。感染症対策を徹底するため、換気や手洗い・うがい、必要に応じてマスク着用などの指導や啓発活動を行う。再度、受診が必要な場合</p>	

<p>は、学級担任と協力し、保護者や生徒に対してきめ細かく連絡を行い、受診を勧める。</p> <p>保健委員会の活動として、健康に関するポスターづくりや集会での啓発活動を適宜行う。</p> <p>美化委員会の活動として毎月清掃点検を行い、校内美化に努める。</p>	
--	--

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析(最終評価)	
<p>① 習熟度別授業やチームティーチング授業を実施計画どおりに実践している。</p> <p>② 授業、集会、学級活動などで家庭学習の大切さ、自主学習の重要性の指導を行っている。</p> <p>③ 定期的な小テストの実施により、知識の定着を図った。デジタル教科書での授業や資料の提示により、視覚的にわかりやすい授業展開を行った。また、調べ学習や課題の提出を学習者端末で実施し、ICT を活用する機会を増やした。文化発表会では、書写作品や創作俳句の展示を行った。</p> <p>④ 勉強用のプリントを配布するなどして、課題に加え、頻繁に課題を出し、自主学習の定着を図った。ノートやワークも含めて、提出率は8割をこえている。</p> <p>⑤ 生徒アンケートにおいて、「数学の授業は分かる」という項目について、肯定的回答が、3年生は 89.2%、2年生は 79.6%、1年生は 71.6%と全学年で目標を上回った。また、「授業では ICT 機器を効果的に活用している」という項目について、肯定的回答が、3年生は88.4%、2年生は 91.9%、1年生は 85.8%と全学年で目標を上回った。これは、デジタル教科書を利用することによって、視覚的な面からの理解の一助になり、問題演習に十分な時間を確保することにもつながっている結果であると考え。また、各授業で考えたことを表現する機会を週2時間以上設けることもできている。</p> <p>⑥ 提出物や小テストの実施により知識の定着を図った。主体的・対話的な実験・観察授業により、科学的に思考・判断する力を育むようにしている。</p> <p>⑦ 本年度も、合唱コンクール、全体合唱の取り組みに対して、全校をあげて積極的に取り組むことができた。また、鑑賞においても、主体的・対話的な学習を積極的に取り入れ、ICT 機器を有効に活用するなど、成果を上げている。ワークシート等については、毎回 90%以上の完成度である。</p> <p>⑧ ほとんどの作品の完成率は目標の80%以上にできているが、一部の作品では80%にできなかった。またテストや授業での説明などを通じて美術に関する理解を深めることができた。</p> <p>⑨ 補強運動を継続して行うことができた。ハードル走で50m走を測定したり、冬季は持久走を実施したりすることで、振り返りをすることができた。アンケートは、男子が 89.2 で上回ることができたが、女子は 73.3 で目標を達成できなかった。</p> <p>⑩ 技術・家庭科ともに毎学期の実習や ICT 機器を利用したわかりやすい授業の展開を行うことができた。また、私生活と教科とのかかわりを繋げ、問題解決能力の育成を行うことができた。</p> <p>⑪ 各学年において定期的に実施しているパフォーマンステストでは各テストで設定および想定される点数をクリアできている。3年生の GTEC では CEFRA1 レベル総統に達している生徒数の割合が、大阪市平均を10.6ポイント上回る結果を残した。</p> <p>⑫ 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男子は本校が 43.51 点、全国平均が 42.20 点、女子は本校が 50.54 点、全国平均が 47.58 点と、男女ともに上回ることもできた。</p> <p>⑬ 各学年球技大会などの体育的行事を予定しており、運営には体育委員が中心となり行うことができています。</p> <p>⑭ 毎月の食育通信を配布することができた。また、安全な給食のためのアレルギー対応確認表も</p>	

毎月配布することができた。

- ⑮ 「保健だより」を毎月1回配布し、日々の健康推進の意識向上を図ることができた。保健委員会では「熱中症」「歯と口の健康教室」「がん教育」「薬のお話」など生徒中心の活動を充実させることができた。美化委員会では毎月の清掃点検を継続し、校内美化に努めた。未受診者への治療勧告を進めた結果、全体的に治療状況を高くすることができた。

R7年度治療状況:眼科 61.7%、歯科 40.9%、耳鼻科 52.6%(1月末現在)

#### 次年度への改善点

- ① 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答が国語 87.5%、数学 81%で 80%以上であった。昨年度と比較して国語は同等、数学は 4.2%低い値であった。継続して生徒の状況に合わせた授業づくりを行う。2学期末生徒アンケートの「先生方はわかりやすくいてねいに教えてくれている」の肯定的な回答は昨年度 94.9%、今年度 95.5%である。今後もわかりやすい授業づくりをすすめる。
- ② 3年チャレンジテストのアンケート「わからないことや知りたいことがあったとき、図書館資料やインターネットなどで調べている。」の設問で、「当てはまる」の割合が全国より「2.7%低い」結果であったが、昨年度の全国の割合「9.5%低い」より少しではあるが良くなっている。2学期末生徒アンケートの「宿題以外に、予習・復習や問題集を解くなど家庭学習に取り組んでいる」に「当てはまらない」という回答は 8.1%であった。目標の 8%以下ではなかったが今年の 9.8%より良くなっている。今後も家庭学習の大切さ、自主学習の重要性の指導をあらゆる場面で行う。
- ③ ICT 機器を利用した授業を増やした反面、言語活動の場が減ってしまったことが課題である。ICTを使った個人での活動時間とグループ討議などの他者と交流する時間のバランスを見直し、両立させる授業づくりをすすめていく。
- ④ 今後も継続して自主学習の習慣を養うために、それぞれが自分で取り組むことができるような、家庭学習用の課題を与えていく。また、社会科への興味関心を持たせるために、毎回の授業の中で、ICT 機器を利用した授業や、主体的な学びを深めるための班学習、ロールプレイングなどを積極的に取り入れていく。
- ⑤ 生徒アンケートの指標を上回っているが、生徒が「数学的活動」をより一層行える時間を確保できるように工夫していく必要がある。今後も今以上の ICT の活用を進めていく。
- ⑥ 引き続き、提出物や小テストの実施により知識の定着を図っていき、実験・観察授業により深い学びになるよう継続していく。また、昨年度の課題であった理科室が使われていない時期については、教科書変更があり、一部履修順を入れ替えたことによって改善が見られた。現状の学級数で理科室が1つしかないこと、教科書準拠になっていない実験器具が多いことは課題である。
- ⑦ 今年度の成果を、来年度も継続して行えるよう、またさらなる向上をめざすことができるよう積極的に取り組みたい。ただし、年度や学年により、課題はさまざまであるため、臨機応変に柔軟に対応することが大切である。
- ⑧ 作品完成率は伸びつつあるが、制作する作品により高い低いがあるのでテストや作品制作を通じて作品を完成することの喜びや技能の定着、美術を愛好する心情を育てたい。また ICT を利用した作品などを実践していきたい。
- ⑨ 生徒がより主体的に取り組むことができるように、ICT の活用やグループワークを多く取り入れ、興味関心を持てるようにする。また、道具・設備の充実も実現したい。
- ⑩ 作品制作や実習を行うことができたが、生活と授業内容をリンクさせた、深い学びや問題解決

能力のさらなる育成を行いたい。また、ICT 機器をさらに活用し、技能と知識の習得を深める授業展開を模索、実行していきたい。

- ⑪ 年3回の英検の機会も有効的に活用し、年間の計画の見通しを生徒自身が立て、普段の授業での活動を通じて各公式テストや英語力調査で府平均を上回ることを目標にする。
- ⑫ 男女ともに、8種目中6種目で、全国平均を上回ることができた。男子は立幅跳びとハンドボール投げ、女子は50m走とハンドボール投げで上回ることができなかった。引き続き、補強運動を毎時間取入れたり、回数などを工夫することで、筋力の向上をはかる。
- ⑬ 今後も引き続き、体育的行事の計画をしていくとともに、リーダー育成にも力を注ぎたい。
- ⑭ 来年度からアレルギー申請がシステム「つばさ」に移行されるので、周知徹底が必要である。年度途中から「食育つうしん」をデータ配信にしたが、再検討したい。
- ⑮ 保健委員会では生徒中心の活動が充実していたので、今後も継続したい。美化委員会での活動の活性化に取り組みたい。懇談での未受診者勧告の効果が大きく認められたので、今後も引き続き担任や保護者と連携して健康啓発に努める。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>○年度末の生徒アンケートで「授業ではICT機器を効果的に活用している」の項目について、「あてはまる(ややあてはまる)」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>○ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</p> <p>○教員の一人当たりの平均時間外勤務時間が、校種別の平均を下回る。</p> <p>○年度末の保護者アンケートで、「学校の行事や教育活動、子どもたちの様子は、ホームページや通信(学年・学級だより等)や懇談会でよく知ることができる」の項目について、肯定的な回答する保護者の割合95%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進(ICTを活用した教育の推進)】</b></p> <p>タブレット端末、デジタル教材を活用し、教師だけでなく、生徒の活用する機会を増やしていく。また、教師の使用機会を増やすために、使用したいソフトや機能の調査を行う。</p> <hr/> <p><b>指標</b> 年度末の生徒アンケートで「授業ではICT機器を効果的に活用している」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。教職員へのアンケート調査を行う。</p>	B
<p><b>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり(働き方改革の推進)】</b></p> <p>学校行事や各会議の精選を進めながら、業務全般の負担軽減につなげ、さらなる「働き方改革」の推進を図る。</p> <hr/> <p><b>指標</b> 教員の一人当たりの平均時間外勤務時間が、校種別の平均を下回る。</p>	C
<p><b>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援(読書活動の推進)】</b></p> <p>図書館の整備し、読書活動を推進する。朝読書の実施・図書館を毎日開館する。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートで「読書が好きである」の項目について、「とても思う(そう思う)」と回答する生徒の割合が、60%を上回る。</li> <li>・図書館を毎日開館し、月別図書館利用者数において260人を上回る。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進(情報発信)】</b></p> <p>「開かれた学校づくり」を推進するために学校ホームページのタイムリーな更新や各通信の発行に努め、さらなる情報発信の活性化を図る。</p> <hr/> <p><b>指標</b> ・年度末の保護者アンケートで、「学校の行事や教育活動、子どもたちの様</p>	A

<p>子は、ホームページや通信（学年・学級だより等）や懇談会でよく知ることができる」の項目について、「よくあてはまる」と回答をする保護者の割合を前年度以上にする。（R6年度 42.5%）</p>	
---	--

<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（最終評価）</b>	
<p>① 今年度は ICT ロッカーを増設し、教員が利用しやすい環境整備を行った。また、アンケートを行い、必要とされているアプリや機材の調査も行い、機材の追加も行った。生徒は ICT 環境において「整理されている」と84%が答えた。</p> <p>② ゆとりの日の週1回の設定はできていた。しかしながら、教員の一人当たりの平均時間外勤務時間は、中学校平均を上回り、目標を達成できなかった</p> <p>③ 生徒アンケートの結果、「読書が好きである」の結果は、昨年度の65.4%から55.9%になった。図書館の利用は、平均して月260人をわずかに上回った。</p> <p>④ 年度末アンケートにおいて「学校の行事や教育活動、子どもたちの様子は、ホームページや通信や懇談会でよく知ることができる」の項目について、「よくあてはまる」が65.3%となり、前年度を上回った。学校ホームページは今年度途中でアップデートされた際、閲覧数が不明になったため昨年度との比較はできないが、年間を通じて適宜、生徒の様子を中心に情報を伝えることができた。</p>	
<b>次年度への改善点</b>	
<p>① 心の天気入力や、休み時間でのタブレットのルールなど学年間で差がみられる。来年度は学校全体でルールの共有を図る予定である。</p> <p>② 学校行事や各会議の精選を進めてきたが、時間外勤務の減少には大きくつながらなかった。今後、教職員一人一人の仕事分担量を精査し、それぞれに合った働き方を提案して、学校全体の時間外勤務時間数の減少を図っていく。</p> <p>③ 来年度も、図書委員会を通じて、読書活動の推進を図っていく。また、テーマ展示やイベントを充実させていく。</p> <p>④ 引き続き、学校全体で教育活動全般の様子をタイムリーに情報公開していく。</p>	